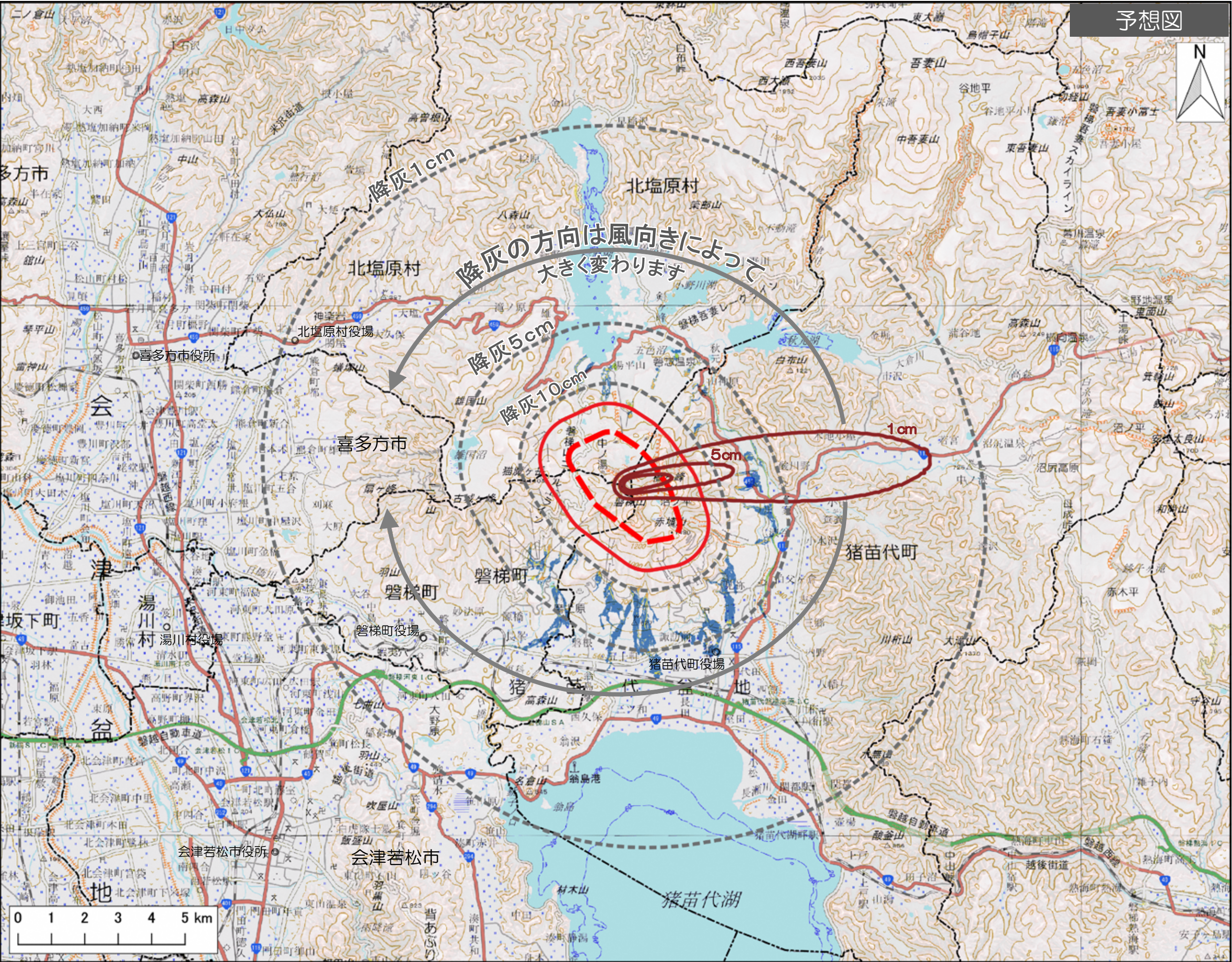


小規模水蒸気噴火のハザードマップ

●この図は小規模水蒸気噴火（噴出量は100万m³：御嶽山2014年噴火相当）が発生した場合のハザードマップです。



- 大きな噴石が火口から1kmの範囲に飛散します。
- 降灰の分布は、上空の風向きによって大きく変わります。磐梯山上空の風は年間を通して西風が多く、東側に分布することが多い傾向にあります。
- 降灰した範囲では、噴火後の降雨で「降灰後の土石流」が発生します。この図では100年に1回の大雨（日雨量約165mm）が降った場合の土石流の浸水高を示しています。
- 降灰後の土石流が流れる場所や土石流の規模は、降灰の範囲や降った雨の量などで変わってきます。

＜凡 例＞

- 想定火口範囲
- 大きな噴石
- 降灰（西風の場合）※想定火口範囲の中心から噴火した場合
- 降灰（西風以外の場合）※想定火口範囲の縁から噴火した場合

降灰後の土石流の浸水高（目安となる氾濫水深）

- 2m以上
- 2m未満～50cm以上
- 50cm未満（大人のひざ上）

県 境

市町村境

国 道

高速道路

鉄 道

※「降灰後の土石流」災害予想区域図は、磐梯山に源流域をもつ溪流に100年に1回の大雨（日雨量約165mm）が降った場合に、各溪流内に降った水量とその水量で下流に運ばれた土砂が氾濫した場合の想定範囲を数値計算により算出したものです。